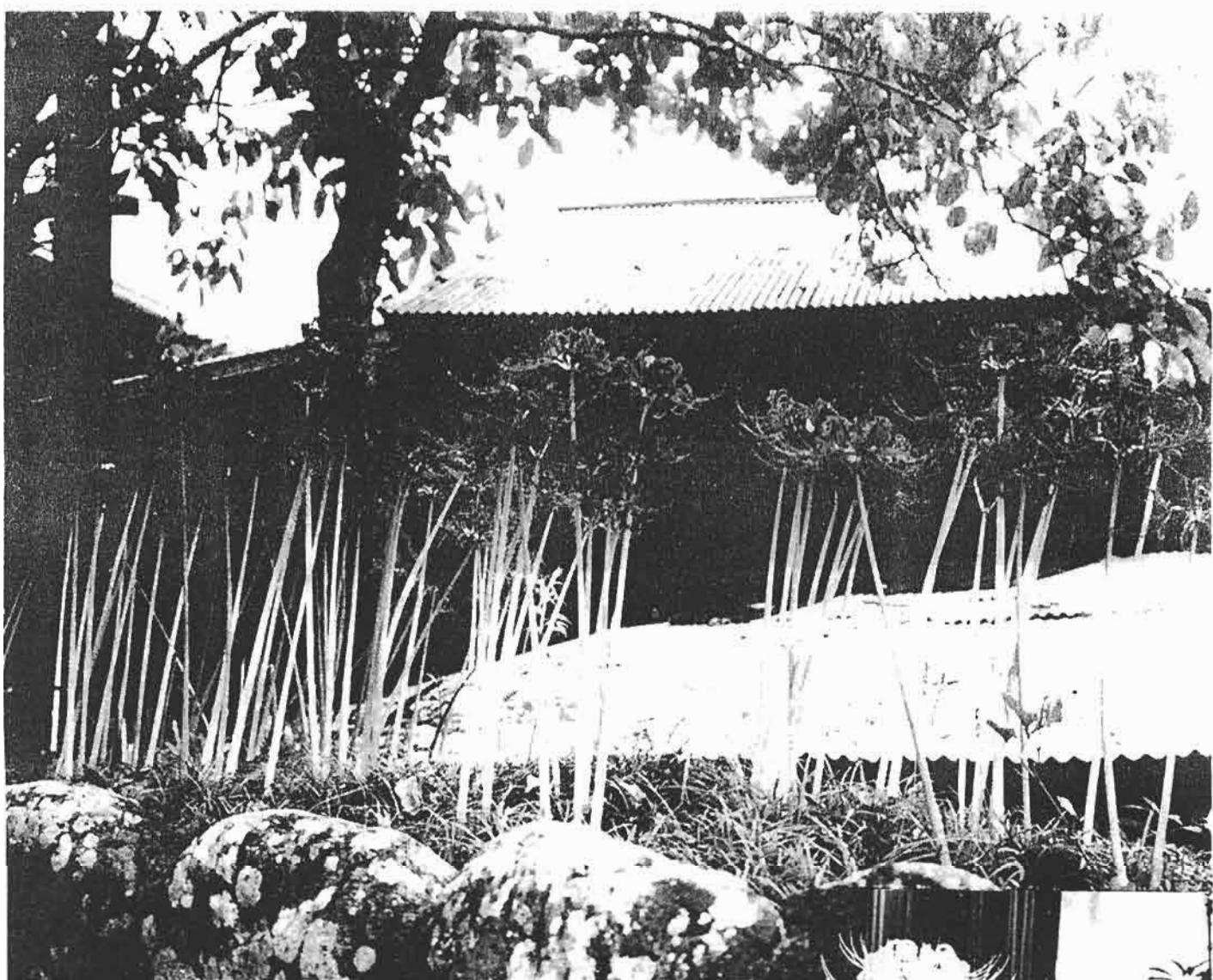
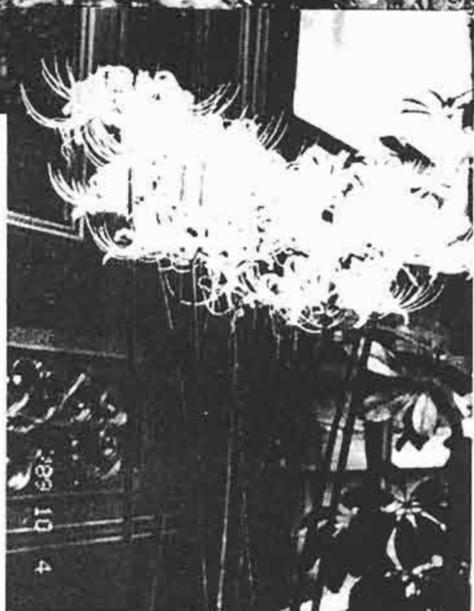


# 中川根ふる里通信 = 第15号 =

編集・発行・モアラブ中川根  
連絡先 〒428-03  
静岡県榛原郡中川根町  
上長尾859-6  
ふる里通信係  
郵便振替口座  
(名古屋) 7-81556



智満寺 参道に咲く  
曼珠沙華  
美しい白色彼岸花



# 母校は今



## 静岡県立 川根高等学校

川根高等学校を紹介させて頂く機会を、与えて頂き心から感謝いたします。

川根高等学校を語るとき、第一に申し上げねばならないことは、地域の振興に、教育の推進が不可欠の要因であるとの英断を下されました当時の町長でありました鈴木七蔵様をはじめ、地元選出の

県議会議員 原 軍一先生の御尽力と、本川根町長鈴木治平氏・助役鈴木直善氏・教育長井沢隆俊氏・中川根町助役滝本芳治氏・教育長平口五和夫氏等、多くの方々の御理解と御尽力を賜りました。

この時期の町財政事情は必ずしも豊とは申せない状況の中で、三町の教育の振興に全町挙げて取組まれた結果、難産の末誕生した経緯を忘ることはできません。

昭和38年3月19日 静岡県教育委員会告示第5号により、静岡県立藤枝東高等学校の分校として、定員150名で設置が認可され、同年4月5日 第一回入学式が挙行されました。

昭和41年3月31日に独立が認可され、新校名 静岡県立川根高等学校となり、同年4月8日独立記念祝賀式が挙行され、文字どおり新生川根高等学校としてスタートし今日に至っております。

その後の経過は、学校の沿革に示したとおりであります。



生徒の信条

- 『自省』 常に自ら敬しみ、心を磨く。  
 『創造』 意欲をもってよき未来を築く。  
 『果斷』 公正な判断のもとに積極的に行動する。

## 学校の沿革

- 昭和38年 3月19日 分校設置、静岡県教育委員会告示第5号。  
 定員150名。  
 (校名、静岡県立藤枝東高等学校川根分校)
- 昭和38年 4月 5日 第1回入学式挙行。学校後援会及びPTA発会式挙行。
- 昭和39年 6月13日 第2グランド完成。
- 昭和40年 4月15日 新校舎(鉄筋3階建)完成。弓道場完成。
- 昭和41年 3月31日 藤枝東高等学校から独立。(新校名、静岡県立川根高等学校)第1回卒業式挙行。(卒業生176名)
- 昭和41年 4月 8日 独立記念祝賀式挙行。
- 昭和41年 7月30日 体育後援会発足。
- 昭和43年 1月27日 体育館兼講堂落成、同落成記念式挙行。
- 昭和43年 4月 1日 生徒定員1学級増。定員192名。
- 昭和45年 3月14日 校舎建築第1期工事完成。
- 昭和46年 1月31日 校舎建築第2期工事完成。
- 昭和46年 3月15日 格技場工事完成。
- 昭和46年 4月 1日 生徒定員減、定員180名。
- 昭和49年 5月30日 管理棟完成。(鉄筋3階建)
- 昭和50年 9月28日 第1グランド整備事業完成。(テニス、バレー、バスケットコート整備)
- 昭和50年10月 4日 独立10周年記念式挙行。
- 昭和51年 3月15日 野球バックネット完成。
- 昭和51年 4月28日 野球部後援会発足。
- 昭和52年 9月 8日 プール完成。(25m、7コース、金属製)
- 昭和55年 1月11日 夜間照明施設完成。
- 昭和57年 9月12日 創立20周年記念式挙行。
- 昭和58年 4月25日 分収林の設定、植林。
- 昭和59年 6月24日 校舎棟耐震補強工事着工。
- 昭和59年 9月26日 校舎棟耐震補強工事竣工。

川根高等学校は地域の方々に支えられて、今年で創立以来27年になりました。

現在の川根高校の状況を御紹介申し上げますと、生徒数469名であり、川根3町出身者が99%を占めています。

また、川根3町の高校進学者の約67%が川根高校に入学しており、川根3町の高校進学率も、94%に達し地域の高校として、その機能を存分に果たしているものと確信しております。

しかし、学校教育の中で最も重要なことは、教育の内容であり、その教育内容の定着度がどの程度であるかが課題となります。

川根高校では、一人一人の生徒の自己実現を目指し、教育課程の編成に配慮し、進学を希望する生徒には、国公立大学の合格可能な学習を実施しており、毎年国公立大学の合格者を出しています。

また、地域の特性から、公務員を希望する生徒も多く、10数名の合格者がおり、県立高校の中では最も高い率を示しています。

近年、進学希望の生徒が増加の傾向にあり、50%を越えている状況であります。

部活動も、地域の方々の御理解と御援助を頂き、一生懸命努力しているところでありますが、県を制覇するところまではいきませんしかし、目標を高く掲げ全国制覇を目指して頑張っています。

さて、これまで川根高校の内容について御紹介して参りましたが、これから、川根高校の素晴らしさを御紹介したいと思います。

静岡県に県立高校が94校あります。その中で最も素晴らしい高等学校であると自負しています。まず、これ程地域の方々に物心両面にわたり援助を受けている高校はありませんし、学校の規模が12学級で、生徒数が469名と、極めて適正な規模であります。

全校が一体となって教育活動ができる点で恵まれていると思いま

す。また、自然環境に恵まれ、地域の人間関係が、都市部のように疎遠にならず、相互の意志の疎通が十分に行なわれているところから最近社会問題となっています地域の教育力の低下は、この川根地区では、問題になりません。

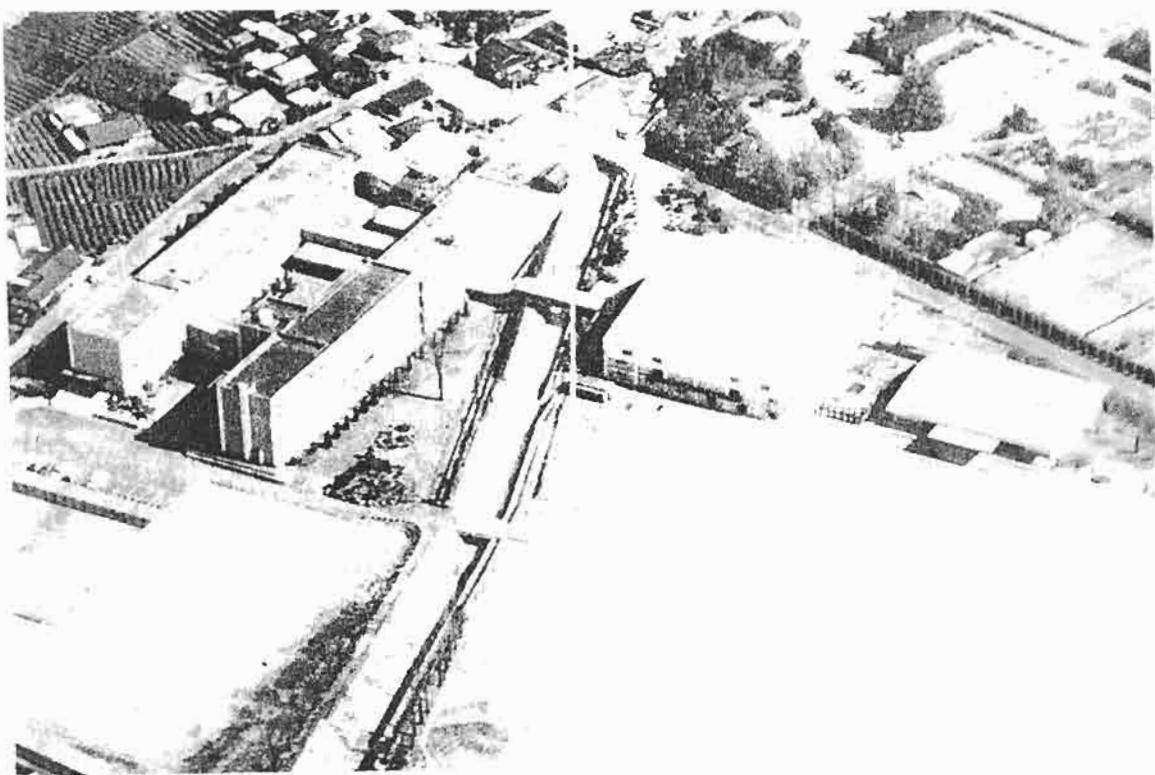
生徒につきましては、皆様御存知のごく如く、知的発達段階は画一ではありませんが、それぞれ磨き尽くされていないところに、たまらない魅力がありますし、人間的にも純粹さを失つておらず、一人一人立派な個性を持ち合わせおります。

一方教師集団は、年令構成が他校と比較して若く、キャリアの点で問題がない訳ではありませんが、若さの特權と申しましようか、

バイタリティーに溢れており、生徒との年令の開きが少なく、教師と生徒の人間関係も比較的順調であります。また、中川根地区在住の職員が多く、献身的に生活の全てを教育に注いでいることも、見逃せないことがあります。

以上のことを総合的に判断しますと、川根高校が如何に素晴らしい学校であるかが御理解頂けると思います。我田引水とお叱りを受けるかも知れませんが、学校教育を推進する立場では、まず、学校を愛し、生徒を愛し、地域を愛することができなければ、眞の教育はできません。

地域の方々の御支援と御援助を頂いていることを肝に命じ、川根高校の生徒のために、全職員一丸となつて頑張りたいと思います。町民の皆様に、従前に勝るお力添えと、御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、静岡県立川根高等学校の紹介と致します。



静岡県御前崎市 宇多板敷  
作曲 伊藤洋一  
作詞 田川峰岐

### 大井川

歴史は遠し  
人達の樂を  
歌声たかし  
さよき流れの  
自省の心  
ああ清かなり

### 春つれば

春つれば  
わが母校  
ますのかみ  
うつては  
われらが行くて

### あした夕へ

千古の積み  
山並みぬくも  
いのち溢るる  
創造の夢  
ある豊かなり

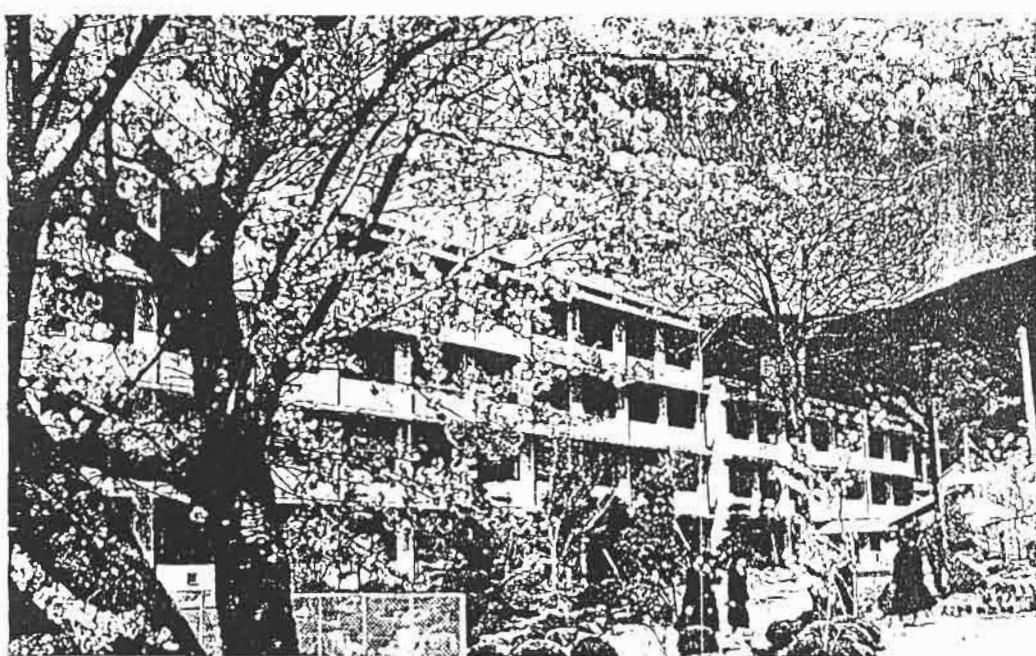
### 雲かて

赤石の  
わが母校  
さみどり  
いろとれは  
われらが行くて

### 三

三年とともに  
永久の真理を  
乗りつづぶ  
とはふらみと  
果斷の意志を  
あれ確かなり

若人の  
求めんと  
わが母校  
むちとすし  
板敷は  
われらが行くて



# 郷土の偉人 高村峰藏氏



前回号にてご案内致しました様に、徳山出身の高村峰藏氏をご紹介申しあげます。生家は野志本で、元町議会議員、政商村末次郎さんのお兄されまーだ（七十九才）夫人、息子さんは焼津市に住んでいらっしゃります。高村氏は教育界一身上に人生を歩まれた方です。九年前に永眠

にお話を伺つてまいりました。又昭和三十六年、中川根広報に「ふるさとへの言葉」を寄せて下さっております。併せておとどけ致します。

高村氏は明治三十五年に生まれ、十七八歳の時、水戸の鈴木末松さんへ元村長鈴木宗二郎氏の（おじに当る方）と茶商を志して、上京されました。

おりしも伊藤博文公の書生募集があって、受けてみたところ、合格し、書生のかたわら、法政大学に入学されました。卒業後、当時の東京市役所に就職、すぐに文部省に入り、無形文化財の課長に昇進された後、函館水産大学会計課長、引前大学、北海道大学各事務局長を経て、奈良国立博物館次長を務められました。

## 望ましい人間的な程のよさ、離れて知るふることの味

私は四十三年前、郷里徳山を出て、学生時代は年に二回位、学校卒業と同時に文部省に勤めてからは年一回位、時には四、五年も帰省しないこともあつて、それも一泊か二泊して帰住するので、郷里の皆様にはお目にかかり機会も少なく、大井川線に乗つても、年々知り得る人が減つて、最近では知らない人はかりになつてしまつた。

けれども金谷駅に降りたとたんに、胸がわくわくしてくる。若い時から今まで、その気持は同じだから、自分ながらおかしい。故郷といふものはいくつになつても特別な味があるもの、それは故郷を離れて暮らしている人だけが味うことしか出来ない。四十数年の間、年毎にうつり行く故郷の姿を眺めるのは、こまなく樂しい。更に九十歳を越した母

親が尚健在であることは、私事ながら嬉しい限りである。

釜の口の河原から高瀬舟に乗つて家山で昼食、向谷に上陸して、島田駅から上京した当時のことが瞼に浮ぶ帆掛舟と川岸の松林、鶴山の七曲

りの難所。そうした景色は汽車が出来ると、遠くなつてしまつた。

戦後、電源開発で、川根の交通は急速に発達し、帰省する年毎に、郷里の文化生活の向上は目覚ましい。このようは、川根の町村が出現するとは夢にも思つていなかつた。

人間は勝手なもの、欲の深いもの、自分の都合の悪いことには賛成しないものと大体相場がきまつている。全然無意で自我性のない人間が、やう多くある筈もない。何事も「程のよい」のが望ましい。世の中の人が誰も彼も「程のよい人」で、程のよい考え方、程のよい生活をすれば世の中は円く納まる。学問がどんなに出来ても程のよい人であれば教養のある人とは云えない。

現今、教育の問題は殊にやかましい。教育の目的は学問技術を教えて程のよい人間をつくることにある。然し消極的な、自主性のない人間を意味するものではない。

川根各町村の小中学校は、全国農山村の中では相当立派なものと云われている。結構なことで、教育に熱心である証左に外ならぬ。

全国各地で小中学、殊に中学の合併のことが議せられ、実行されているが、川根地方にもこの種の問題は、あらかのよう聞いている。学校統合の趣旨は適正な規模の学校を造つて、よい教育をすることにある。中学にあつては相当数の学級がない限り、各専門科目の教師を得ることは経費その他関係から不可能に近い。そこで交通が発達し、通学時間が短縮されると、当然に合併問題は起きてくる。どこでも一番問題になるのは、通学時間のことである。それはとりも直さず、学校位置の問題で論議は之に終始する。

今迄三分か五分で学校に行けたものが、三十分も四十分もかかることに、なると朝寝坊が出来なくななる。親としても子供としても大変な損失と思うのは無理もない。然しよく考えると、朝寝坊が出来て、不充分な教育を受けるより少々通学に時間がかかるても良い教育を受ける方が、はるかに本人のためになること位は、誰でも解っている筈である。学校の附近に住むする人は、環境に恵まれていて、世間に甘えているとも云える。四十分も五十分もかかるで通学する子供は、従来もあつたし、現在でもある。学校附近に居住する、とか特権かのよくな意識をもつことは程のよい人の考える、ことではないように思う。

学校統合の衝に当る方は、あくまで日紙で土地の環境、通学時間等を考慮して、子供の身になって適正の所に決める。我田引水、自分の

部落に置く強引な議論は差控えられる筋合のもので、それでなければ、「程のよい村の世話役」とは云えないばかりでなく、将来に於いて、村の教育を阻害することになりかねない。

さて、統合新校舎が出来たときは、附近の人は教育上最もよい立地条件に置かれたのであるから、幸福の「おすそ分け」の意味からも、遠路通学する子供のために、出来る限りの便宜と援助をしてこそ、「程のよい村人達」と申せましょう。

以上陳べた事は解りきった平凡なことながら、実行の段になると、大奮發と大決心が必要と思われる。私は学校統合の一一般的な考え方を述べたまでで、中川根村の教育行政面について、かれこれ云つてはいるのではなく。若し同一問題が起きたときは、こんな考え方をもつている人がいたことを思へ出して頂ければ幸甚。

村民の皆様の御隆盛をお祈りして筆を擱く。

昭和壬寅 正月十一日記（昭和三十七年）

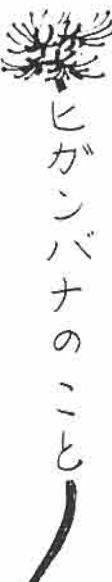
昭和三十七年四月、中川根村政より町政に移行した時であります。翌三十八年四月、町内の二中学一分校（旧中川根中、徳山中、同中地名分校）が統合され、上長尾に中川根中学校が設立されたのかわりに、今春地名小学校が南部小学校に統合されて、町内すべての小中学校が新たに歩みを始めたわけです。

中学校の統合記念に、高村氏は十三面の古代鏡を寄附して下さいました。奈良時代、平安時代、鎌倉時代、南北朝時代、桃山時代、江戸時代の各年代を遂てあつめられたもので、鏡の背面には、それぞれの時代の特色をあらわす精巧な模様や図案が刻まれ、小色合いと手ざわりのなかに、遠い古代の姿をくわせる貴重な逸品です。長いあいだその収集に心がけられ、郷土の子弟教育に役立てたいと贈つて下さったものです。

◎十三の鏡の名称と年代は次のとおりです。

- \* 葡萄鏡
  - \* 菊花流水双雀鏡
  - \* 圓第鱗菱双雀鏡
  - \* 楓葉花鳥文鏡
  - \* 桐文散羽鶴鏡
  - \* 扇散鶴鏡
  - \* 龜甲花萎蝶鏡
- 奈良時代 平安時代 鎌倉時代 南北朝時代 桃山時代 江戸時代
- \* 莲葉山鶴龜鏡
  - \* 松竹鶴龜長柄鏡
  - \* 桜蘭山水柄鏡

## ヒガンバナのこと

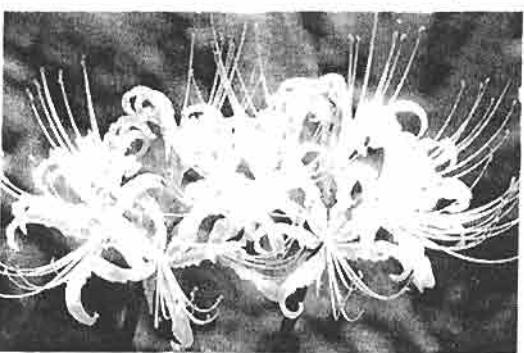


今年も真っ赤なヒガンバナが美しく咲きました。野辺の草が枯れ、寒々とした頃、ヒガンバナの葉は青々と伸び、名前のことく、彼岸頃（秋）に開花する時には、葉は一本もありません。効い頃、葉を敷いてすばり回り、おりと熱くした思い出もよみがえて来ます。毒々しい氣味が悪いと言う声も聞かれますが、秋の訪れをおしゃべりしてくれるあさやかな使者と言えます。

## 渡來說あれこれ

### ヒカンバナは泳いで来た？

ヒカンバナは中国の重慶の近く、揚子江上流流域の岩壁上に自生しているといわれます。休眠中の球根でも水より比重が小さくて浮き生命力が強く、海水にも強いことから、降雨によって川に落ちた球根が海に流れ、海流に乗って日本に流れ着いたのではないか？ という説を唱えた人がいましたが、いろいろ考えてみても、日本への漂着は困難ではないかと言われています。たゞ、川の流れの対岸にあつたヒカンバナがある年突然、こちら側の岸で咲くことから、ヒカンバナは泳ぐのだろうか？ と言うことになったのだそうです。



### 僧りよ運搬説

昔、中国に渡った僧りよが日本に持ち帰った、あるいは中国の僧りよが日本に布教に来るとき持参し、各地に伝播したという説があります。これは、布教を続けていく上で、飢餓にあつたとき、球根をすりおろし、水にさらして、でんぶんを食べ、飢えをしのぐための救荒作物の目的で伝えられた、というもののです。しかし、ヒカンバナは、毒花といって毛嫌いされています。球根に含まれているリコリシンという成分に毒性があり、生のまま食べると下痢や吐き気を催すと言われています。

ついでヒカンバナは清潔です。ピンクや黄色もあります。

関東地区故郷を想う会開催

東京都品川区 東京簡易保険年金会館、「ゆうぼーと」  
の名で、毎年4月に開催されるに、関東地区中川根の会主催の「故郷  
を離れる会」が盛大に開催され、最初に中川根の会を「くみうと奔  
走」された宇野唯可さん（下長尾出身）を中心に、沢口也さん（水川）  
山田勝一さん（又野原）、遠町出身、関東地区在住、昭和七年生まれの皆さ

んのお世話をあり、中川根の会  
が生まれた事は本当に嬉しい  
事です。又小る里通信が中川根  
町と皆さんとのバイブル役にな  
った

事も考みて見ますと墨の符です  
関東地区は県外から里通情発送  
のうちの百五十人以上の箇、こんが  
いわでしゃいます。その中より五十  
名の皆さんか、又中川根町のうは

ある里の香りが、いっぽうに匂ひました。年齢も五十才代を中心にして、二十才代から七十年代まで、男性

女性といふと、少くして数時間川根井も流れでほんやか。零風気につつまれて、いよいよ今後も

いと感じます。微力ですが、小石里  
通信をお手伝いでいきたいと考  
えております。今日、浅井君

う会に出席されたが、馬鹿さん

アスはどいただけたアヌを壊しておです、



卷之三

# スキンシップ° 大井川

「スミレシタガタアリ。」  
「二〇〇人が死ニ。



あなたの夢と私の夢合せたら  
もっと大きな夢になるかもれないね

### 森下幸恵「夢の花束」より

下泉(小竹)出身の森下幸恵さんが、このほど詩画集「夢の花束」を出版されました。森下さんは生れて間もなく脳性マヒにかかり、足が不自由になってしましました。小・中学校は静岡市内の養護学校で寮生活。わが家へ帰れるのは夏休みと、お正月のたった二度。幼ない頃から、親元を離れての暮らしは、すい分、つらく淋しい事だったと、「あとがき」に書かれておりました。そうした淋しさやつらさに負けそうになると、森下さんは自分の心とお話をしまった。小学四年生の時、詩を書いて、先生にはめられた事で、詩をつくるのが好きになり、日記がわりに詩を書き始め、少し中断した時もありましたが、再び書き始め、現在までずっと書いています。高校を卒業し、愛知太陽の家で働くようになり、森下さんは寮の友達と「外へ出たいね、健常者の友達がほんわか」といつも話していくことに、社会でよく、広い世界を知りたかったのです。

そんなある日、ラジオからシンガーソングライターの水谷若緒さんの声を聞いて、若緒さんによる詩をいっぱい書いたノートを送ったのがきっかけで、広い世界へ出て行ける様になりました。森下さんの恩人、かりばいももた、詩画集「夢の花束」を受け取って下さい。

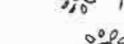
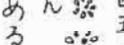
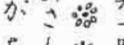
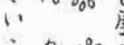
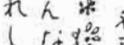
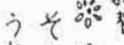
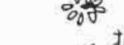
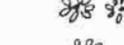
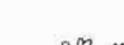
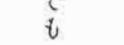
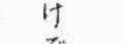
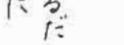
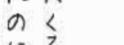
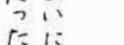
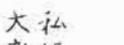
かあさんへ

小さい頃からわがままで  
泣き虫だった私

いつもかあさん困らせてた

家に帰りたくて泣きながら  
かあさん追いかけたり  
「私も帰りたいって言って  
かあさんの服ギュッとつかんだまま  
泣きつけたあの日

私の手をむりやりはなして  
目を真っ赤にして  
逃げるよう帰つていつたかあさん  
本当は一番つらがつたんだよね



# 天王原墳丘墓確認調査



（用一日か二日まで）上記の如きを主導する天王原壇丘  
墓の確認調査が行なわれること。調査主任は鶴賀郡安曇会主任調  
査員は東海大学第一高校の大澤教大先生（日本考古学会員会員、  
県考古学会代表委員）、副主任は東海大学考古学部の村松富美夫  
先生（県考古学会会員）の御指導のもと、東海第一高、郷土史研究部、東  
海工業高、考古学研究部及び元青二中生徒有志の皆こんど、  
猛暑の中での発掘調査となりました。月には遺物の復元これ、墓主  
の瞬間の目覚めは又長く眠りに落ちてゐる様子等、考古学的調査報  
告書は出来ておりますが、大澤先生の監督下、終始丁寧に事じ  
中止にお知らせします。

四二の調査は何のために撮つたかを十分

「ここには塚（土をもり上げた小山）が立りますが、昔からいろいろな伝説  
が伝わっておられます。『後醍醐天皇』の御自拔（おじはし）が埋葬されたりとか、塚に  
女性は登ってはいけないと、いわれてきました。誰のものがどもかとも、も  
う少し身分の高い人が葬られている『お墓』があることは、代々人々に伝じら  
れて来ていました。ところが近年お墓地となると、塚の人にんづかゆる  
されてきて、その形がわからなくなってしまい、そこで地元の人達が  
本復元された天王原塚丘と一年前の姿

Q 主体部から何が発見されましたか？

主体部と思われる部分は、盛り土を積み上げる前の地山面に、稍円形（約5×3m）の穴を掘り、その中に梯が置かれていたようです。しかし、今回はその中を全部掘上りることはあえてしませんでした。主体部のほか、中心と思われる位置に構築する溝を幅約60cm掘り下げてみました。その結果、地表より約2メートル（造られた時代の地表からするとおそらく3メートル以上）とみて底に達しました。その部分から銅錢一枚、

中にとどめて、この塚が古の「お墓」のかどうか、お墓とすれば、いつころのところの様な人の「お墓」であるがと見て置かめようといふことに、決まりました。

170mに敷き詰めて、以下に示した。この石群は土止めや排水施設とも  
考えられます。『墓域』と示すものではないかと考えられます。  
現今も約2m、西面約2.7メートルですが、基の地山面の下に死者  
を埋めた後、また上に積み立てて2x1m程度に盛り土をして

Q いつころの「お墓」なのですか？

先ずあります。おもろく造られた当時はお碗を伏せ  
にさうな、こしりと一で周囲からすぐわかつた、とでし。  
今のようにすぐれた機械も道具も豊かに時代に、これだけの規模の土木工事  
が何人くらいの人々がどれほどの日数とかけて造られたのかを考えてみると、  
なりの權力を持った人々「お主」、「お主」などが想像されます。

残念ながら今日までのところは決定的な時代をきめ手がかりは見つかっていません。土の盛り方や形からは古墳時代（4～7世紀）の円墳に非常によく似ていますが、古墳の分布や今までの大井川流域の遺跡の研究から考へても、この場所にこのような古墳が造られたことに疑問があります。昭和23年ころ地元の人々によって一部が破られました。そのとき鉄刀・鐵鎌（鉄のやり）・蹄鉄などが絞り出されたと言われますが、その遺物は現在不明になつていて、よみぎりした記録は残されていません。しかし、このとき参加された人の記憶をもとに考えると、古墳時代よりも新しい時代（平安時代末期～12世紀にかけて）の遺物であったように推定されます。また今回調査の結果、その時に遺物の出土した地点は主体部（お墓の主である遺体が埋められている場所）より約一メートルほど深いところから発見されたことから、判りました。したがって、このときの遺物が必ずしもこのお墓の主のものとはいえないことになります。



へりこう般變止の、何に使つたかわからぬ朱色の漆を塗つた直径も1.7m、長さは両端が破損しているため不明ですが約1.5mほどの中が空洞になつた竹ぐみのようものが発見されました。

Q どうして全部掘上げなくて途中でやめてしまったのですか？

今回の調査は掘った後、わざとくまうのか日向をほめません。境江ヒ主体部の位置を確認し、その後、できるだけその形に炭し、今後大事に保存していく、というのが目的です。また発掘調査の様子を観られた方はおかれよりのように石や鉄などの硬いもので出来たお墓ではあります。木製の棺や人骨などはすでに腐ってしまってほとんど残されていません。発掘調査が遺跡をこわしたことになつてしまします。

またこの遺跡はいつの時代のものかは判りませんが、でも「お墓」であることは違ひはありません。あるいは直接血のつながりでいるご先祖さまかも知れぬし、中川根町の発展の基礎をつくられた方のお墓かも知れません。ともかくも、なくなつた後にこれほど規模のお墓がつくられたのは、多く人々におしまれ、多くの人がために亡くなった人物であつたことも想像されます。なんにしても宝物さがーー的な興味本位で「墓みはき」と批判されるような行為はすべきではありません。なん世代が前までは地域の人々に大事に守られ続けてきたこの「塚」を今後も大事に守り子孫に伝えていくべきではないでしょうか。

Q 天王原と塚の関係は？

ここには百年位まえまでは、「八坂神社」があつたことが記録に残っています。その後、上長尾の大幡神社に移され、現在いっしょに祀られています。京都の「八坂神社」と同じ牛頭天王（すてんのう）と、神体にしてたものと思いますほどの地域ではお天王さん、天王社、祇園などとも呼ばれています。

## 余録

⑧ 天王社について、天王社とは明治維新前の神号で神仏混合の神社の手で祀られていました。維新の際に神佛分離の令が發せられ天王社の称は廢止された。中川根町史によると寛正二年（一四六年）建立され文元年（一六六一年）再建の棟札があり、元禄年代には八石七斗の御朱印地があり、金谷以北には、このような大きなお宮は天王社しかなかった。



⑨ 塚の所有者は明治七年、八幡神社に合祀されるまでは社領と。八坂神社について、その後上長尾の渥美文雄さんの父林平さんの所有となり現在梅高の太田幸さんの茶園とあります。今回の調査には渥美文雄さんの並なづぬ熱意と支援がありました。又太田さんの歴史に対する理解があつたからこそ実現出来たのだと思います。

おそらく、そこから地名が付けられたものでし。う、「天王」が「天皇」とまちがわれ、そこから後醍醐天皇の伝説が生まれてきたものでしょう。

牛頭天王はもとはインドの仏教の聖地「祇園精舎」の守護神で、日本では「疫神」（疫病や天災地変など）をわざわざもつたす神。たどりとおこす神であるとともに、それを封じこめる力を持つ神として平安時代から各地で疫病の流行や飢饉のたびにその信仰が広まつたよう

です。天王原の塚の主の怨靈（死者の靈魂が人々にわざわざもたらす）と考えられて、特に身分の高い人の靈ほと、その力が強いと考えられたことを鎮めるため、あるいは天災地変の厄さいをさけるために地元民の信仰の対象になつてきました。ことも考えられます。

だとすれば、ここにあつた八坂神社（京都でもこの呼び名は明治以後つけられたもの）のもととの、神体はこの「塚」であつた可能性もあり、「天王原」「天王森」の地名とこの「塚」とが関係あることになります。しかし、これには確実な証拠はありません。



定期購読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 〒共 150円

皆様の定期購読がふる里通信の発行を支えます。年間4回(季刊誌)の発行を予定しております。

今回で購読期間の切れる方に、郵便振替用紙を同封致しますから引き続ぎご購読をお願いします。

年間予約 600円の御送金を、おすすめします。購読期間が切れても半年以上御送金の無い場合は勝手ながら中止とさせていただきます。

\*住所変更のお問い合わせお願いします。

\*問い合わせ先 TEL 0547

56-0015

小沢節子

\*払込通知票

口座番号 名古屋<7>-81556

加入者名 中川根ふる里通信係

中津川対岸より梅島高尾山を望む



つるべおとしの秋の日、かたとえのように、日暮れがめきり早くなりました。そして星の美しい季節となりました。人工衛星ラントサットからの夜の地球で一番輝いて見えるのが日本だということです。光の氾濫は暗い夜空をもヘルに包んで美しい星空は望めないといいます。中川根の空はまたまたきれいに澄んでいます。秋の夜空をばかわすべかサスやカシオペアが西の空へ移りオリオンやスバルが輝くころ木枯しがふき寒い冬がやって来ます。



十月始めの午後尾呂ス保へ散歩しました。上長尾から約6kmウッドハウスとアスレチックコースもあって、14kmの前後で、うひ、幸いなたって感じです。この様に午後の少しの時間、友達と時々散歩します。この日はアサギマダラチョウが目につき、また薄水色のすみとおった美しいすみうで、林の中から何匹も飛び立ちました。アサギマダラは群をつくて南の地方へ飛んで行くといいます。その空路が中川根の北西山間部上とか、きっとあのすみうも旅立つたでしょう。そして白羽山あたりにはエンジンハグマが咲っていました。薄

赤葉の小さな花が桜並木につき葉はパセリの様です。

すすきのほもおそろて、とてもきれいでした。これ様に自然を満喫できることはとても贅沢なことかも知れませんが、恋と理解して又友と歩きたいと思っています。写真にておやすみわけと……

○これからは同窓会の季節です。十月二十四日には久保尾小卒業七才以上の者が東京在住の岩間さんり招きで集まって寒い一時を過ごすことに。中川根は同窓会をよく行う所という事です。お正月を中心におられた催りお知らせお来るかも知れません。

郵便振替

ふる里通信 発送先及払込通知票 加入者名が変更になりましたが、内容など今までと何ら変わりはありませんから御承知下さい。

今後も全力投球でいきたいと思いますから御急見御要望 原稿等としてお寄せ下さい。

